

都道府県建築士会・事務局所在地

士会名	〒	所在地	電話	FAX
（公）社日本建築士会連合会	108-0014	東京都港区芝 5-26-20	建築会館	03(3456)2061 03(3456)2067
（一）社北海道建築士会	060-0042	札幌市中央区大通西 5-11	大五ビル	011(251)6076 011(222)0924
（一）社青森県建築士会	030-0803	青森市安方 2-9-13	青森県建設会館	017(773)2878 017(723)7105
（一）社岩手県建築士会	020-0887	盛岡市上ノ橋町 1-50	岩織ビル	019(654)5777 019(654)5777
（一）社宮城県建築士会	983-0862	仙台市宮城野区二十人町 301-3	宮城県建設業国民健康保険組合会館5F	022(298)8037 022(298)8038
（一）社秋田県建築士会	010-0001	秋田市中通 2-3-8	秋田アトリエビル5階 (一財)秋田県建築住宅センター内	018(827)3718 018(827)3873
（一）社山形県建築士会	990-0825	山形市城北町 1-12-26	山形建築会館 3階	023(643)4568 023(643)4562
（公）社福島県建築士会	960-8043	福島市中町 4-20	みんゆうビル	024(523)1532 024(523)4644
（一）社茨城県建築士会	310-0852	水戸市笠原町 978-30	建築会館	029(305)0329 029(305)0330
（一）社栃木県建築士会	321-0933	宇都宮市築瀬町 1958-1	栃木県建設産業会館	028(639)3150 028(639)3160
（一）社群馬県建築士会	371-0846	前橋市元総社町 2-5-3	群馬建設会館	027(252)2434 027(252)2565
（一）社埼玉県建築士会	336-0031	さいたま市南区鹿手袋 4-1-7	埼玉建産連会館	048(861)8221 048(864)8706
（一）社千葉県建築士会	260-0013	千葉市中央区中央 4-8-5	建築会館	043(202)2100 043(202)2101
（一）社東京建築士会	103-0006	中央区日本橋富沢町 11-1	富沢町111ビル 5階	03(3527)3100 03(3527)3101
（一）社神奈川県建築士会	231-0011	横浜市中区太田町 2-22	神奈川県建設会館	045(201)1284 045(201)0784
（一）社山梨県建築士会	400-0031	甲府市丸ノ内 1-14-19	山梨県建設業協同組合会館1階	055(233)5414 055(233)5415
（公）社長野県建築士会	380-0872	長野市南長野宮東 426-1	長野県建築士会館	026(235)0561 026(232)2588
（公）社新潟県建築士会	950-0965	新潟市中央区新光町 15-2	新潟県公社総合ビル 3F	025(378)5666 025(285)2911
（公）社静岡県建築士会	420-0033	静岡市葵区昭和町 9-5	第2大石ビル7階	054(254)9381 054(273)0478
（公）社愛知 建築士会	460-0008	名古屋市中区栄 2-10-19	名古屋商工会議所ビル 9階	052(201)2201 052(201)3601
（公）社岐阜県建築士会	500-8384	岐阜市藪田南 5-14-12	岐阜県シンクタンク庁舎 4階	058(215)9361 058(215)9367
（一）社三重県建築士会	514-0003	津市桜橋 2-177-2	三重県建設産業会館	059(226)0109 059(225)4281
（公）社富山県建築士会	930-0094	富山市安住町 7-1	富山県建築設計会館 2 F	076(482)4446 076(482)4448
（一）社石川県建築士会	921-8036	金沢市弥生 2-1-23	石川県建設総合センター	076(244)2241 076(243)4821
（一）社福井県建築士会	910-0854	福井市御幸 3-10-15	福井県建設会館	0776(24)8781 0776(24)9570
（公）社滋賀県建築士会	520-0801	大津市におの浜 1-1-18	滋賀県建設会館	077(522)1615 077(523)1602
（一）社京都府建築士会	604-0944	京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町 641	京都建設会館別館	075(211)2857 075(255)6077
（公）社大阪府建築士会	540-0012	大阪市中央区谷町 3-1-17	高田屋大手前ビル5階	06(6947)1961 06(6943)7103
（公）社兵庫県建築士会	650-0011	神戸市中央区下山手通 4-6-11	エクセル山手 2 階	078(327)0885 078(327)0887
（一）社奈良県建築士会	630-8115	奈良市大宮町 2-5-7	奈良県建築士会館	0742(30)3111 0742(33)4333
（一）社和歌山県建築士会	640-8045	和歌山市ト半町 38	和歌山県建築士会館	073(423)2562 073(433)2772
（一）社鳥取県建築士会	680-0873	鳥取県鳥取市市場 2-86-1	タウンアローズ86	0857(32)8777 0857(32)8776
（一）社島根県建築士会	690-0886	松江市母衣町 175-8	建築会館1階	0852(24)2620 0852(24)3780
（一）社岡山県建築士会	700-0824	岡山市北区内山下 1-3-19	建築会館	086(223)6671 086(221)2185
（公）社広島県建築士会	730-0052	広島市中区千田町 3-7-47	広島県情報プラザ	082(244)6830 082(244)3840
（一）社山口県建築士会	753-0072	山口市大手町 3-8	山口県建築士会館	083(922)5114 083(922)5122
（公）社徳島県建築士会	770-0931	徳島市富田浜 2-10	徳島県建設センター	088(653)7570 088(624)1710
（一）社香川県建築士会	760-0018	高松市天神前 6-34	村瀬ビル	087(833)5377 087(833)5394
（公）社愛媛県建築士会	790-0002	松山市二番町 4-1-5	愛媛県建築士会館	089(945)6100 089(948)0061
（公）社高知県建築士会	780-0870	高知市本町 4-2-15	高知県建設会館	088(822)0255 088(822)0612
（公）社福岡県建築士会	812-0013	福岡市博多区博多駅東 3-14-18	福岡建設会館	092(441)1867 092(481)2355
（一）社佐賀県建築士会	840-0041	佐賀市城内 2-2-37	佐賀県建設会館	0952(26)2198 0952(26)2248
（一）社長崎県建築士会	850-0036	長崎市五島町 5-34	トーカンマンション 713 号室	095(828)0753 095(827)7007
（公）社熊本県建築士会	862-0954	熊本市中央区神水 1-3-7	熊本県建築士会館	096(383)3200 096(383)1543
（公）社大分県建築士会	870-0045	大分市城崎町 1-3-31	富士火災大分ビル3F	097(532)6607 097(532)6635
（一）社宮崎県建築士会	880-0802	宮崎市別府町 2-12	宮崎建友会館	0985(27)3425 0985(27)3698
（公）社鹿児島県建築士会	892-0838	鹿児島市新屋敷町 16-301	県公社ビル 326	099(222)2005 099(226)2019
（公）社沖縄県建築士会	901-2101	浦添市西原 1-4-26	沖縄建築会館	098(879)7727 098(870)1710

2024年 第15回

高校生の「建築甲子園」

実施・応募要項

- 主催** 公益社団法人 日本建築士会連合会、都道府県建築士会
- 後援(予定)** 公益社団法人 全国工業高等学校長協会、国土交通省
- 協賛企業** ・株式会社 総合資格<総合資格学院>
・ステッドラー日本 株式会社

地域のくらしーまちに住む・地域に開く戸建の住まい

審査委員長 堀 啓二
建築家、共立女子大学・共立女子短期大学学長

コロナというパンデミックが起こり早4年が過ぎようとしている今、働き方、住まい方は確実に変わってきてます。今までは都市で働き郊外で暮らすというように職住分離が当たり前でした。AIの発達、テレワークの導入により働く場所は都市の必要がなくなり、極端な言い方をすれば、世界どこでも可能となりました。一方、2011年の東日本大震災による助け合い、少子高齢化による単身高齢者の増加などを考えると、地域でのコミュニティはとても重要です。そんな中、昭和の時代がレトロとしてブームになっています。

皆さんは「ALWAYS 三丁目の夕日」という映画は見たことがありますか。東京の下町の商店街が舞台となっています。昭和30年代、まだ下町には、住まいと仕事場が直結した賑わいのある町並みが残り、人々は町全体で暮らしていました。町には地場の人が営む、魚屋、八百屋、肉屋、豆腐屋、町工場、電気屋、ガラス屋、畳屋、ペット屋、文房具屋、薬局、診療所など生活に必要な施設が点在し、商売だから当然外に向かって開いた店構えをしていました。そしてその奥や2階には住まいを構え生活をしていました。私は九州の福岡で生まれ、父の仕事の関係で東京に引っ越しました。小学校時代過ごしたのは東京ドームにほど近い水道橋から御茶ノ水に向かったところです。本郷2丁目にある関東大震災後にできた復興公園と一体となった元町小学校に通ってました。昭和40年代前半からです。今は変わってしまいましたが、このころはまだ生活のためのお店が点在していました。当然お店は地場の人たちの経営だから、私と友達の多くは学校帰りには度々道草をし、様々なお店に遊び(たぶん半分以上は商売の邪魔をしていたと思いますが)に行き、自然と色々なことを学びながら、近所の人たちと仲良くなっていきました。まさに町そのものがコミュニケーションの場であり勉強の場でした。

このように、この時代は、まだ地域には豊かなコミュニティが残り地域で助け合いながら暮らしていました。まさに「まちに住む」という言葉が当てはまる時代でした。

先に述べた働く場所が自由で、地域でのコミュニティが重要となってきた今、今回のテーマは働きながら暮らすことができる職住一体の戸建の家「まちに住む・地域に開く住まい」です。地域の中で暮らすこと、働くことはどういうことなのか。ライフスタイルを見直すことから新しい住まいの糸口を見つけ出すことができるのではないのでしょうか。地域のくらしと周辺環境に目を向けて、そこから計画して欲しいと思います。

職業、家族構成、構造、規模は自由に設定してください。新築、増築、建替え、リノベーション、コンバージョンなど建築形式も自由です。君たちの自慢の町・環境を生かした地域コミュニティのきっかけとなる職住一体の戸建ての家「まちに住む・地域に開く住まい」の提案を期待して待っています。想像を拡げて挑戦してください。

※「建築甲子園」は、公益社団法人全国工業高等学校長協会の「ジュニアマイスター制度認定プログラム」です。

1 応募対象者

建築教育課程のある工業高校、高等学校、工業高等専門学校(ただし、3年生までとする)を対象とし、教員が監督、同校在学学生を選手としたチーム編成での応募とします。

2 応募要領

今回の建築甲子園では、地域のくらしーまちに住む・地域に開く住まい(戸建て)をテーマにします。下記の条件で自由に提案してください。その提案(建築設計や内装設計)の表現方法は応募者にお任せしますが、テーマの理解度、提案度、具体性、独創性、表現力(プレゼン)等から審査します。

2-1 場所・敷地

皆さんの住んでいるところで自由に設定してください。周辺環境を読み込んで、職業、家族構成、構造、規模は自由に設定してください。

建築形式(新築・増築・建替え、リノベーション、コンバージョンなど)も自由です。

2-2 必要図面

・作品タイトル

・敷地条件

近隣説明図・景観特徴説明図や写真を使ったビジュアルな表現。記述は600字以内とすること

・コンセプト

極力図などを用いてビジュアルに表現してください。記述は600字以内とすること

・面積表(敷地面積・建築面積・各階床面積・延べ床面積)

・配置図 縮尺任意。

※配置図には建物のほか、地形・庭・アプローチ・駐車場などを表現してください。

※敷地に高低差がある場合、必ず高さの数値を示した等高線を表記してください。

・1階平面図 S=1:100

※建物周辺の外構計画を記入し、植栽表現に加えて、樹種を記入してください。

・各階平面図 S=1:100

・主要立面図(一面以上)S=1:100

・主要断面図(一面以上)S=1:100

・内部空間パース、または外観パース。(模型写真も可)

(任意事項)

・その他設計意図を表現するスケッチや図表・矩計図・詳細図など。

・図面に簡単なコメントを記述することは可とします。

*新型コロナウイルス感染防止について

応募作品制作にあたり、新型コロナウイルス感染症に対する対策を充分にとり、作業を行っていただきますようお願い申し上げます。

3 応募作品の提出について

3-1 作品提出物

・作品の提出は、各校で選抜してください。

・応募点数は、1校5点以内とします。

・作品は、スチレンボード等くせの少ない台紙を

使用し、最終的にA1判横使い

(A2判2枚またはA3判4枚の貼り合わせでも可)

パネル1枚になるように取りまとめてください。

額装は不要です。

・応募作品(裏面に都道府県名を明記して下さい)

・CD-ROM(作品パネル写真、出場選手・監督の集合写真、応募用紙を記録)

A2	A2	A3	A3
		A3	A3

3-2 提出期限

・2024年9月末日

・郵送の場合は当日の消印有効とします。

・持参する場合は、土・日・祝日を除く午前10時～午後5時迄とします。

3-3 提出先

学校所在地の都道府県建築士会

3-4 質疑応答

質疑応答は行いません。

4 審査

4-1 審査の流れ

応募された作品は、先ず、県大会予選(都道府県建築士会単位での審査)を行います。

県大会で選抜された1作品が全国選手権大会(連合会審査)へ提出されます。

*県大会予選の実施方法については、別途に各都道府県建築士会から案内します。

11月初旬 一次審査

一次審査通過校へは、連合会より通知するとともに、最終審査会でのプレゼン用動画の提出を依頼いたします。プレゼン時間は、1校5分以内、ファイルはwindowsで再生可能なデータファイルをDVDで提出いただきます。詳細につきましては、通知時にご案内させていただきます。

12月初旬 最終審査

一次審査通過校より提出されたプレゼン動画を視聴し審査を実施し、優勝、準優勝ほかを決定します。

4-2 建築甲子園全国選手権大会審査委員会

審査委員長 堀 啓二(共立女子大学学長)

審査委員 教育・事業本委員会委員長

青年委員会委員長

女性委員会委員長

まちづくり委員会委員長

5 賞及び入賞発表

5-1 入賞及び賞金

①優勝1点 10万円

②準優勝1点、7万円

③審査委員長特別賞 3万円

④教育・事業本委員長特別賞、青年委員長特別賞、女性委員長特別賞、まちづくり委員長特別賞 各2万円

⑤入賞(①、②を除く) 3万円

⑥奨励賞(全国選手権出場全校) 1万円

各賞に応じて賞状を監督、選手全員に贈ります。賞金を受賞チームへ贈ります。

5-2 入賞発表

2024年12月下旬(予定)。

6 著作権

入賞作品の著作権は入賞者に帰属しますが、本会が競技に関する公表(ホームページ、出版を含む)をする場合は、その権利を無償にて使用できるものとします。

7 お問い合わせ先

(公社)日本建築士会連合会 建築甲子園事務局 事業部

TEL 03-3456-2061 FAX 03-3456-2067

mail jigyo1@kenchikushikai.or.jp

<https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/kenchiku-koshien/2022/kenchiku-koshien-kekka.html>

